

産業振興部
商工振興課
直通 055-934-4748

「リレー人材育成プログラム」を開催します！

10月9日（金）、11月27日（金）に「ぬまづビジネスサポート連絡会」にて「リレー人材育成プログラム」を開催します。

■概要等

「リレー人材育成プログラム」は地域の中小企業等が有する知的財産の戦略的な活用により地域の稼ぐ力を向上させる取り組みとして、関東経済産業局が管内1都10県を対象にした企画です。

今回、沼津市が幹事となって同プログラムに応募し、採択されたことから、下記のとおり開催することとなりました。

沼津市では、沼津商工会議所を中心に商工業振興の支援ネットワークとして「ぬまづビジネスサポート連絡会」（通称ぬまサポ）※を設置し、喫緊の課題、起業創業、経営革新、事業承継、各支援機関の取り組みなど、幅広く情報を共有しています。

同プログラムの開催を、事業承継や経営革新、知的財産を「稼ぐ資産」として考えるきっかけとし、中小企業向け支援スキルの底上げを図ります。

広域的・横断的な支援機関ネットワークによる開催は、相模原市、茨城県での取り組みに続くもので、静岡県内では初となります。

■開催日等

開催日 第1回 令和8年10月9日（金）13:00～16:00 セミナー
第2回 令和8年11月27日（金）13:00～16:00 ワークショップ
場 所 沼津商工会議所（コミュニティホール）
主 催 関東経済産業局（運営事業者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング）
参加者 ぬまサポ構成機関の現場職員等

※「ぬまづビジネスサポート連絡会」（通称ぬまサポ）は、支援機関、金融機関、行政機関など15団体で構成された、中小企業や個人事業主の経営課題を支援するネットワークです。

■問合せ等

沼津市役所商工振興課 担当 高遠
電話：055-934-4748
メール：syouko@city.numazu.lg.jp

リレー人材育成プログラム参加者名簿

1 2 機関 2 4 名（順不同）

	支援機関名	担当部署（業務）	性別	年代
1	沼津商工会議所	経営支援課	男	20
2	沼津商工会議所	商工振興課	男	20
3	沼津市商工会	経営指導員	男	50
4	静岡県中小企業団体中央会	東部事務所	男	30
5	静岡県中小企業団体中央会	東部事務所	男	40
6	日本政策金融公庫沼津支店	融資第二課長	男	40
7	日本政策金融公庫沼津支店	融資第一課	男	20
8	静岡県信用保証協会沼津支店	経営支援課	男	20
9	静岡銀行	東部カンパニー法人営業	男	20
10	スルガ銀行	法人営業推進室	男	50
11	スルガ銀行	本店営業部	男	40
12	商工中金沼津支店	営業次長	男	40
13	商工中金沼津支店	営業課	男	20
14	静岡中央銀行	本店営業部	男	20
15	静岡中央銀行	御殿場支店	男	20
16	沼津信用金庫	地域創生部	男	50
17	沼津市役所	農林農地課	男	20
18	沼津市役所	水産海浜課	男	40
19	沼津市役所	産業政策課	男	30
20	沼津市役所	商工振興課	男	50
21	沼津市役所	商工振興課	女	20
22	沼津市役所	商工振興課	男	60
23	静岡県事業承継・引継ぎ支援センター	東部地区引継ぎ支援担当	男	50
24	静岡県事業承継・引継ぎ支援センター	東部伊豆地区親族内承継担当	女	40

令和8年度知財支援リレー人材育成プログラム ～選ばれる支援機関になるために～ 公募開始のご案内

関東経済産業局は、地域支援機関職員が「知的財産」の視点を持って地域企業と対話して、企業理解を深めながら課題を発掘し、発掘した課題に対して他の知財支援機関や専門家等と連携した最適なソリューションを提供できる体制の構築を目指すためのプログラムを提供します。

本プログラムは、過年度より多くの地域支援機関の皆様に活用していただいていたものです。知的財産の視点を持つことで、支援先の事業理解等が深まっただけでなく、具体的な連携支援に発展した例もあります。是非ご応募をご検討ください。

参加のメリット（例）

- ・ 支援に必要な“プラス・ワン”となる要素を得られる
- ・ 知財支援機関とのネットワークを構築できる



プログラム概要

1日目

セミナー

知的財産のアンテナを
獲得する



- ・ 地域支援機関の日常的な支援活動にも関係する知的財産のポイントを座学形式で学ぶ
- ・ 簡易なワークショップも実施
- ・ 1日目終了後、2日目のワークショップで使用する事前課題を提示
- ・ 所要時間は3時間程度

2日目

ワークショップ

知的財産のアンテナを
使ってみる



- ・ 仮想事例をもとにしたワークショップを実施（仮想の事業者の事例を見て、知的財産が関係しそうなポイントを見つける）
- ・ 事前課題の結果を共有し、知財面を中心にグループ討議を実施
- ・ 所要時間は3時間程度

事業報告会

他の支援機関の取組を
共有する



- ・ 本プログラムに参加した全機関が参加する報告会を開催
- ・ オンライン形式での開催を想定（2時間程度）

応募情報

申込締切 **8月7日(金)**

公募書類等は以下のURLから入手をお願いいたします。
なお、申込締切後、一週間程度をめに、審査結果をお知らせいたします。

https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/chizai/r8fy_relay_program_koubo.html



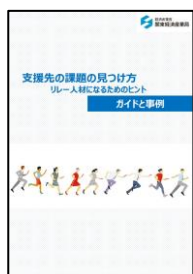
応募先

以下の両方を宛先に入れて応募をお願いいたします。

関東経済産業局 地域経済部
産業技術革新課 知的財産室
bzl-kanto-chizai@meti.go.jp

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
知財支援リレー人材育成事務局
ip-relay@murc.jp

参加者の声



知財という視点から見ると、これまでと全く違ったお客様の姿を感じ取ることができた

知的財産という分野は難解に思われがちですが、実は私たちの生活やビジネスに密接に関わっているという気づきを得ることができた



「企業の強みには多くの知的財産が関係している」ということがわかった

お客様の知財課題らしきものに気付ける感覚を養うことができた

勇気を出して知的財産の話題を出してみたところ、新たな相談ニーズがあることがわかり、INPIT知財総合支援窓口との連携に発展した



令和 8 年度知財支援リレー人材育成プログラム

ー選ばれる地域支援機関になるためにー

プログラム内容のご案内

自分たちに知的財産は関係ないのでは・・・？

自分の支援先に、
知的財産は関係なさそう・・・



支援先からも知的財産の
話題が出たことはないなあ・・・



支援先も、“知財”という観点に気付いていないのかもしれない

本プログラムのねらい



支援機関の皆様が、多様な課題を発掘し、その解決策を提案をできるようになることで、地域の中小企業等からさらに**選ばれる存在**になるのを後押し



そのために皆様の支援機能を強化すべく、「**知的財産**」の**捉え方**や**提案方法**等に関する**トレーニングプログラム**を提供

※知的財産の専門知識を身につけることを目的とするプログラムではありません

※あくまでも、支援機関の皆様が取引先・支援先企業と対話等をする中で、「知的財産が関係する内容ではないか？」ということに気がつける感覚を身につけることに主眼を置いています

地域支援機関にとっての“プラス・ワン”

地域支援機関を取り巻くキーワード

事業性評価

企業価値担保権

対話

小規模企業振興基本計画

地域支援機関の皆様の想い

選ばれる支援機関としての
信頼と存在感を

支援機能を強化

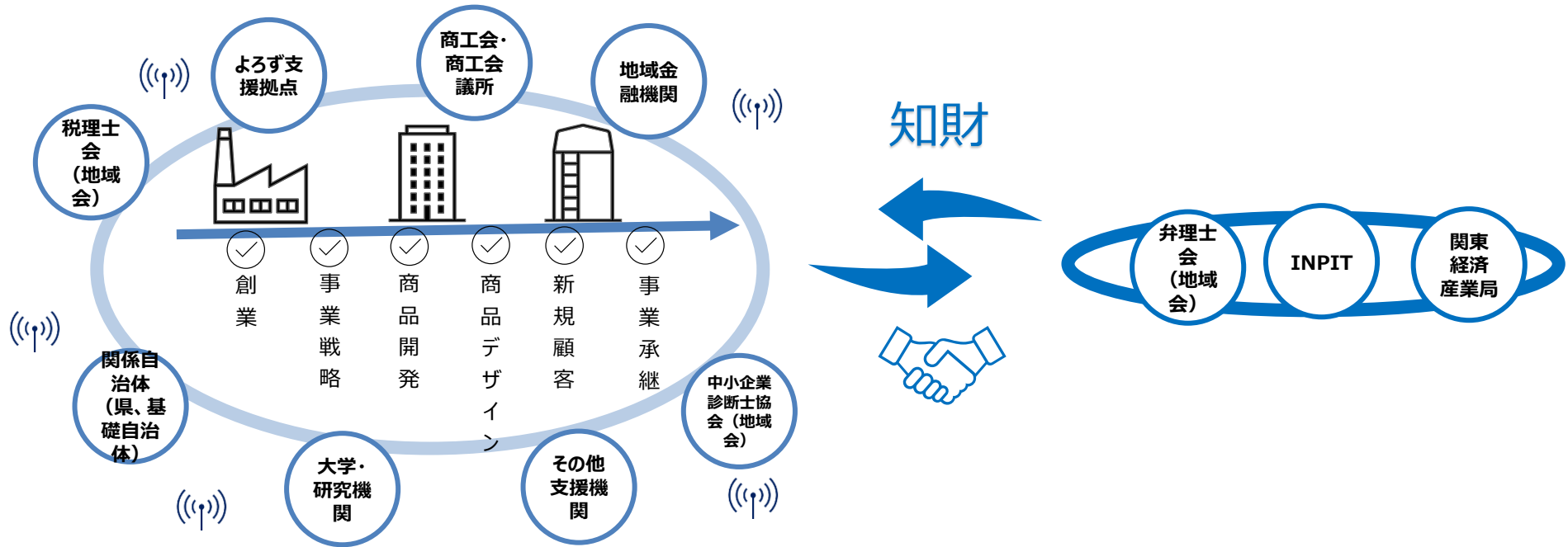
地域企業のために



これを進めるための“プラス・ワン”として、知財のアンテナを身につける

知財支援リレー人材とは？

取引先・支援先との対話や支援の現場で、企業の潜在的な知財課題に気づくことができる人材



プログラムの概要

①セミナーと②ワークショップを2日間で実施

1日目

セミナー

知財視点を**知る**



2日目

ワークショップ

知財視点を**増やす**

※いずれも3時間程度

(実施時間や実施日時については、応募時または採択時に調整可能)

1 日目（セミナー）の概要

以下の内容を基本構成としつつ、詳細な内容は各支援機関と調整してアレンジすることが可能

講演

知的財産の基礎知識

中小企業の事業課題と 知的財産の関係

- 導入として、「知的財産とは何か？」「どのような種類の知的財産があるのか？」「例えば身近な知的財産としてどのようなものがあるか？」等を解説
- 支援機関職員が普段接している企業の課題（創業、事業承継、販路開拓、新製品開発等）と知的財産がどのように関係しているのを解説

演習

簡易ワークショップ^o

- 支援機関職員が普段接している企業の課題に注目した仮想事例を提供
- その仮想事例を読み、知的財産が関係しそうな部分を見つけるワークを実施

※ハイレベルな知的財産の論点は含めませんので、知的財産の知識が薄くても十分に組み入れる内容になっています。

2日目（ワークショップ）

支援機関職員として見るべき知財視点を“多様なパターンで習得”する

事前

事前課題の提出

- 2日目に先立って、参加者は事前課題を提出
- 支援先の概要を整理する程度の内容であり、決して難しいものではありません（過年度も、すべての支援機関が問題なく取り組んでいます）

当日

1. 仮想事例に基づくワークショップ

- 支援機関の皆様にとって“よくある事例”を題材として、知財視点で気になる部分を見つけるワークショップを実施

2. 事前課題の内容に対する助言

- 事前課題で取り組んだ内容をもとに協議を実施
- 知財専門家から、「この企業であれば、知財的にはここが気になる」等の助言を提供

2日目（ワークショップ） 仮想事例のイメージ

検討事項

- お客様に対して何を聞くか？／どのような提案が想定されるか？
- 知財の話が関係しそうな気がするところはあるか？

（２）仮想事例

- 男性（60代）の経営者（甲州食肉販売株式会社）より、「**自社商品をもっと県外にも広げていきたいのだが、何をどのように考えて進めていけばよいのかわからなくなってしまった。**」との相談があった。

<現状>

- 相談者は地域の人を主顧客として、豚肉を中心とした加工・販売を営んでいる。従業員数は10名。後継者は未定。
- 当社独自の「**秘伝の味噌だれ**」の味が高い評判を得ている。（経営者の知恵が詰まっているもの）
- 近年、人口減等の影響もあってか、売上が減少し続けており、**県外も含めて販路を拡大し事業を成長させるための策**が必要であるとの思いが強くなってきた。

<今後について考えていること>

- 豚の味噌漬けを中心に、今後**ECもやっていきたい**と思っている。
- EC展開を見据えて、味を損なわない**冷凍技術**の初期案を考えた。また、様々なニーズにあうと思われる**味付けの配合**等も研究している。（設備等は準備できていない）
- 「**味噌キッチン**」という名前を冠にして、「ビールに合う」「一人暮らし用」「あつさり」「女性向け」等の**バリエーション展開**も考えたい。
- 「ビールに合う」「あつさり」は、最近戻ってきた**経営者の子どものアイデア**であり、先日まで**働いていた飲食店での経験を活かしたレシピ**で実現をできそうである。
- 一人暮らし向けには、**小分けの包装容器**にしてちよつとずつ使えるようにしていこうと思う。イメージの絵は既に考えている。
- **地域としての特性や山梨らしさ**もPRしていきたい。味噌だれの評判がよいので、味噌だれを活かして何か拡大したいとも思っている。
- パンフレットも作らなきゃいけない、パッケージも目に付くようなものにした方が良く、展示会に出て当社の良いところをたくさんPRする、など様々やらなきゃいけないことは思いつくのだが、どれからやったらよいのか、そして実施するにあたってどのように考えればよいのかわからなくなっており、一度相談させてもらいたい。



応募について

公募期間

令和8年7月10日（金）～令和8年8月7日（金） 17時

応募主体

関東経済産業局管内¹に所在地を有する地域支援機関²
単独での応募又は幹事機関³による応募が可能

応募方法

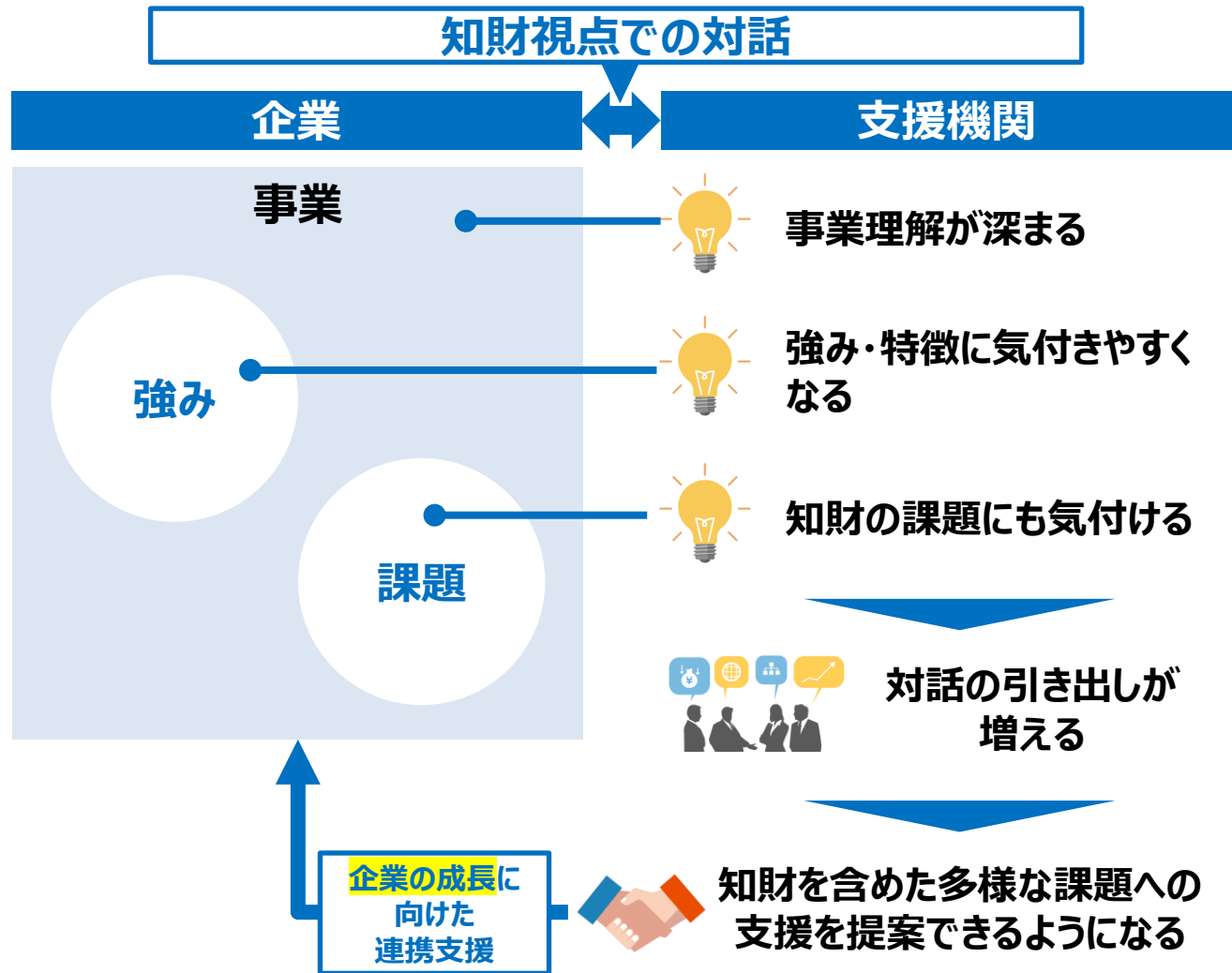
関東経済産業局WEBサイトに掲載する要領と申込用紙を確認したうえで、以下の提出先へ申込用紙を提出

提出先

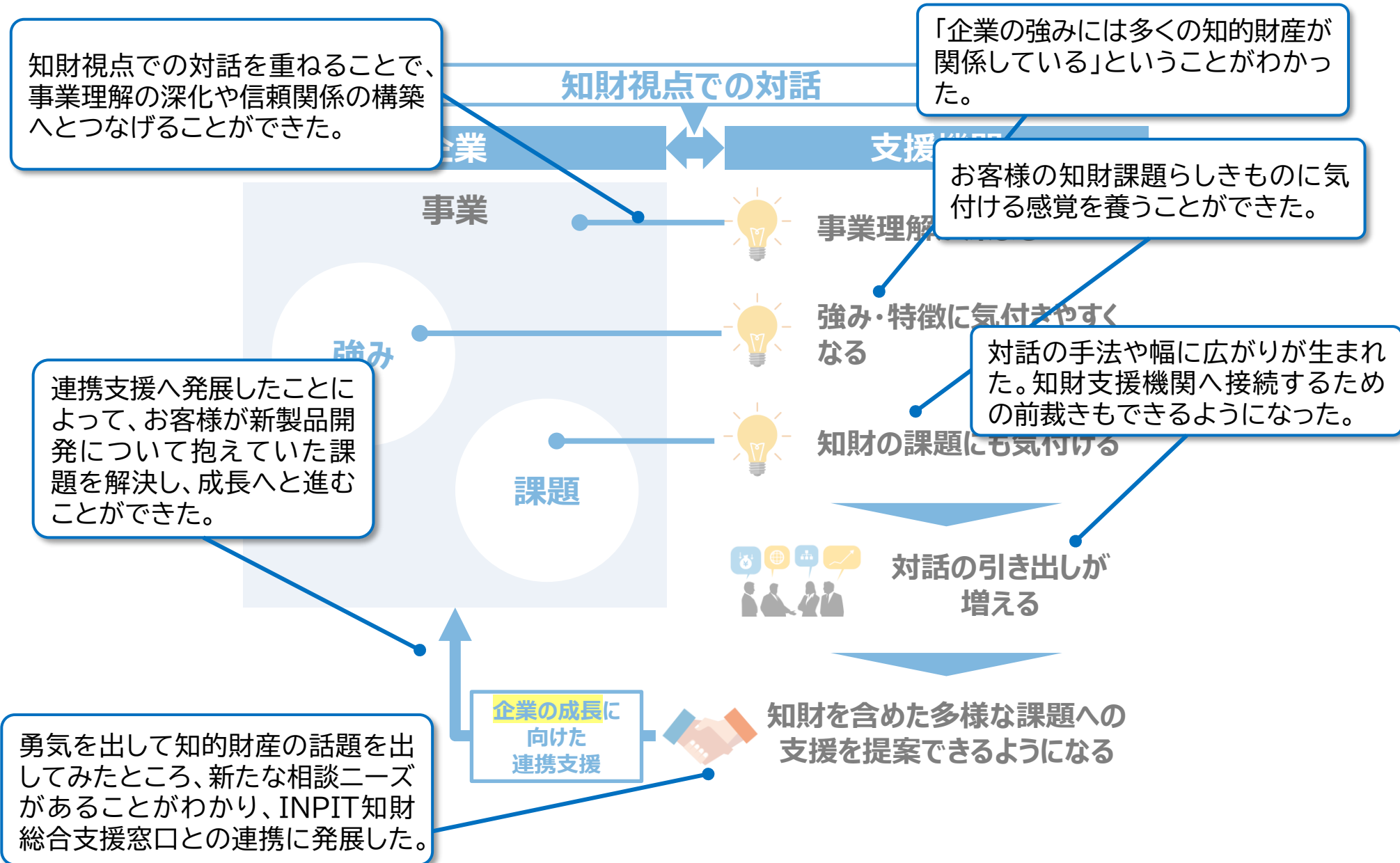
関東経済産業局
bzl-kanto-chizai@meti.go.jp
知財支援リレー人材育成事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
ip-relay@murc.jp
※メール件名に「知財支援リレー人材育成プログラム応募」と記載

- 1 関東経済産業局管内とは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県をいう
- 2 地域支援機関とは金融機関、商工会・商工会議所、自治体、中小企業支援センター、公財・公社、一財・一社、独立行政法人、中小機構、JETRO、産総研、大学・TLO・その他民間の士業、コンサルタント等又は上記地域支援機関を構成員とする一般社団法人、一般財団法人、その他団体組織（連合会等）等を想定する
- 3 複数の支援機関をまとめた幹事機関が代表となって申請し、プログラムには複数の支援機関が参加するもの（例：特定の商工会議所が幹事となり複数の商工会議所が参加する、関連団体（信用金庫協会等）が幹事となり複数の機関（信用金庫等）が参加する）

最後に：地域支援機関の皆様にとってのメリット（実施者の声）



最後に：地域支援機関の皆様にとってのメリット（実施者の声）



関東経済産業局「令和8年度地域支援機関向け知財支援リレー人材育成プログラム」

開催概要

1. 日程

① セミナー	2026年10月9日（金）13:00～16:00
② ワークショップ	2026年11月27日（金）13:00～16:00

2. 場所

① セミナー	沼津商工会議所 会議室
② ワークショップ	沼津商工会議所 会議室

3. 講師・オブザーバー

講師：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

オブザーバー：関東経済産業局

4. プログラム（仮）

① セミナー	（１）講義 ・ セミナーの目的 ・ 知的財産の基礎 ・ 支援先との対話における“知財アンテナ” ・ “知財アンテナ”を活用した対話の例 （２）仮想事例を用いたグループワーク （３）次回（ワークショップ）の予告 （４）事前課題の説明
② ワークショップ	（１）前回（セミナー）の復習 （２）仮想事例を用いたグループワーク （３）事前課題の共有およびグループ内討議